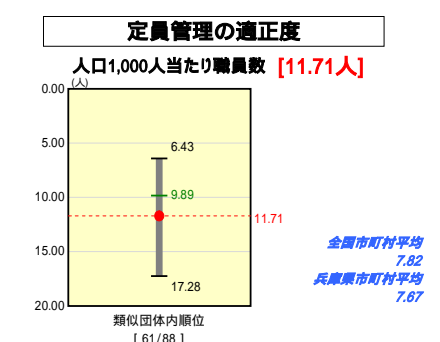
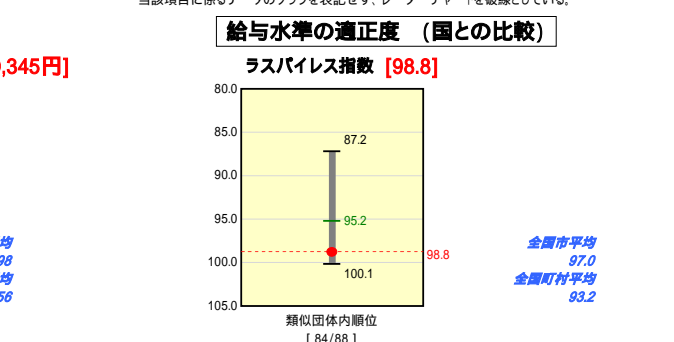
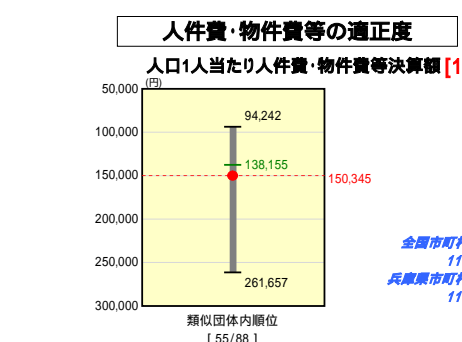
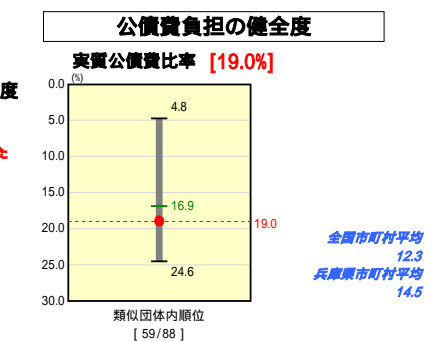
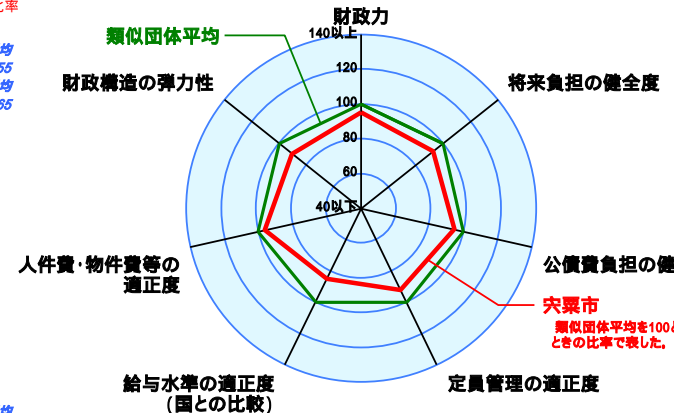
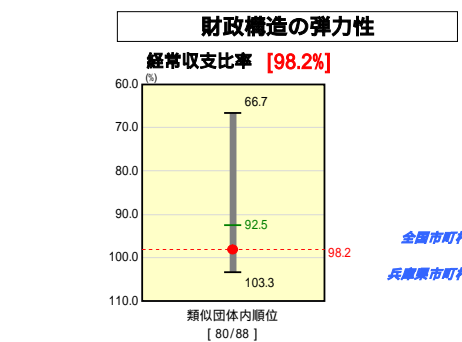
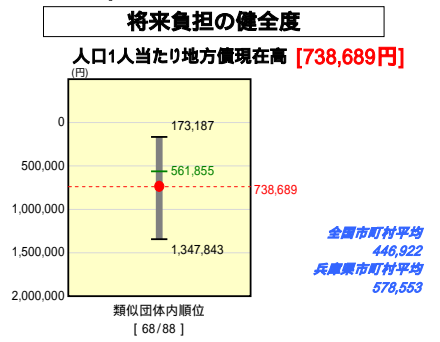
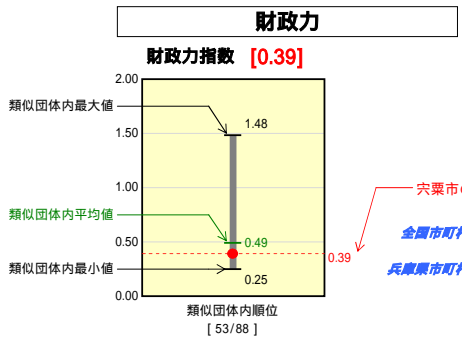


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

兵庫県 宍粟市

人口	44,254	人(H20.3.31現在)
面積	658.60	km ²
歳入総額	22,623,272	千円
歳出総額	22,171,372	千円
実質収支	422,202	千円



人員費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人員費には事業費支弁人員費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数
人口の減少や市内に中心となる産業が少ないことが影響し、類似団体平均より低い。今後とも地方税の徴収率向上対策による歳入確保に努めるほか、林業再生など地場産業の強化や中小企業対策に取り組む。

経常収支比率
合併により一時的に膨らんでいる人員費については、退職者の不補充等により減少傾向にある。しかし、過去の資本整備のために借り入れた地方債の返済金や繰出金の割合が高いことから、類似団体平均より5.7%悪い水準である。平成19年度は高利率の政府系資金の借換や約2億5千万円の繰上償還を実施し、後年度の公債負担の軽減を図った。引き続き、行政改革大綱の理念のもと、施設の統合や人員費の削減等に取り組む。経常経費の削減に努める。

人口1人当たり人員費・物件費等決算額
合併以前に整備した旧団体の施設維持管理に要する経費が多いため、指定管理者制度導入による民間委託を推進しつつ、施設の統廃合に向けた検討も進める。また、事務事業評価を順次導入するなど、事務事業の整理合理化に向けた取り組みを行う。

ラスパイレス指数
類似団体と比べ高い数値を示している。定員管理の適正化とあわせ、人員費の適正管理に努める。

人口1人当たり地方債現在高
平成19年度末の地方債現在高は、普通会計で約327億円、全会計で約747億円である。1人当たりの残高(普通会計)を類似団体平均と比べると約17万円多い。平成18年度と比べると減少しているが、今後、情報通信基盤整備や庁舎建設など大型投資事業を実施することから、残高のピークは平成20、21年度になる見込みである。実質的な後年度負担を見通しながら財政の健全化に努める。

実質公債費比率
大型投資事業の償還が本格化することから比率のピークは、平成24～25年度となる見込みであるため、過去に借入した高利率の政府系資金について借換を行うことで公債費の抑制を図る。なお、「公債費負担適正化計画」により、10年後には実質公債費比率が18.0%を下回るよう目標を設定し、公債費の適正な管理に努めている。

人口1,000人当たり職員数
類似団体平均より1.82人多い。広範な面積を要していることが、職員数の多い要因の一つと考えられるが、平成22年4月1日を最終とした定員適正化計画に基づき、退職者の1/3補充を原則として職員数の削減を図っているところである。なお、本計画の数値目標(平成17年4月1日時点比較 65人)の達成にとどまらず、適正な定員管理に努める。